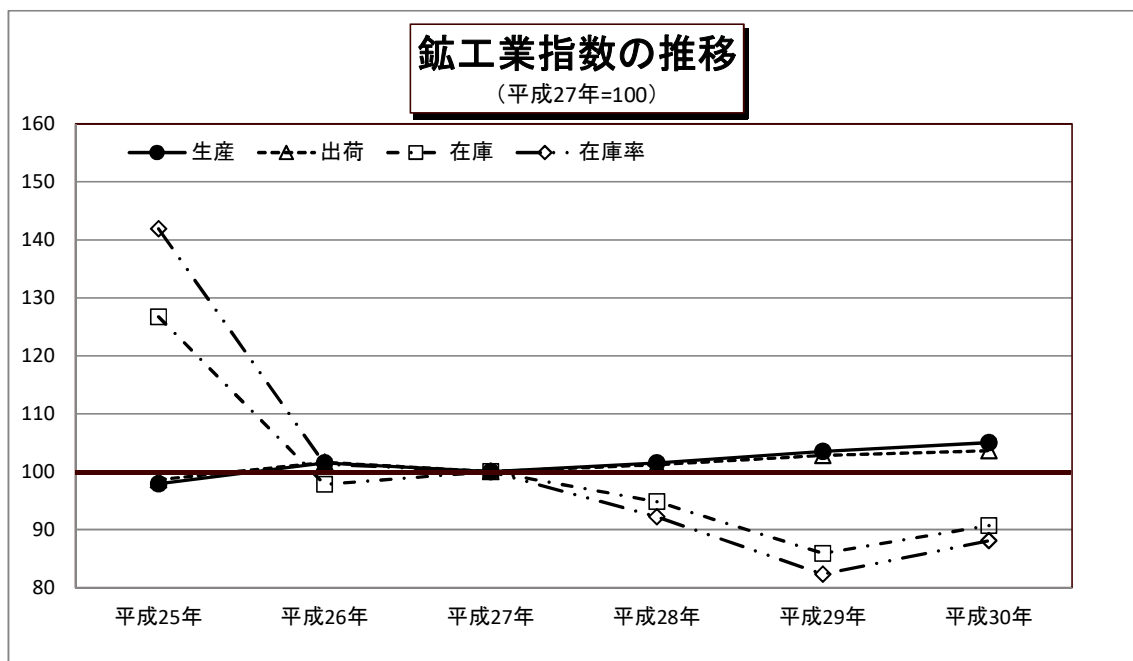




平成27年基準

## 平成30年群馬県鉱工業指数速報

平成30年の群馬県鉱工業生産指数は105.0で前年比1.4%上昇となり、3年連続のプラスとなった。出荷指数は103.6で前年比0.8%上昇、在庫指数は90.7で前年比5.6%上昇、在庫率指数は88.1で前年比7.0%上昇となった。



群馬県企画部統計課

インターネットでご覧いただけます

<https://toukei.pref.gunma.jp/>

## 利用上の注意

### 1. 指数の種類、基準年次、ウェイト算定基準及び品目数

指数の種類	基準年次	ウェイト算定基準	採用品目
生産指数	平成27年	付加価値額	181
生産者出荷指数	〃	出荷額	175
生産者製品在庫指数	〃	在庫額	102
生産者製品在庫率指数	〃	〃	95

### 2. 指数算式－1

品目指数を基準時の固定ウェイト加重平均するラスパイレソ算式である。

$$\text{総合指数} = \frac{\left( \frac{\text{比較時数量}}{\text{基準時数量}} \times \text{基準時ウェイト} \right) \text{の総和}}{\text{基準時ウェイトの総和}} \times 100$$

### 指数算式－2（生産者製品在庫率指数）

在庫と出荷の比率の推移をみることにより、産出された製品の需給動向をみる事ができる。

$$\text{総合在庫率指数} = \frac{\left[ \frac{\frac{\text{比較時在庫数量}}{\text{比較時出荷数量}}}{\frac{\text{基準時在庫数量}}{\text{基準時出荷数量}}} \times \text{基準時在庫額ウェイト} \right] \text{の総和}}{\text{基準時在庫額ウェイトの総和}} \times 100$$

### 3. 分類は、業種分類及び特殊分類（財別分類）である。

### 4. 指数値の計算は月別、四半期別及び暦年別に行い、小数点第2位以下を四捨五入した。

四半期別指数は3か月分（1～3月期=Ⅰ期, 4～6月期=Ⅱ期, 7～9月期=Ⅲ期, 10～12月期=Ⅳ期としている。）の指数値を単純平均したもので、年別指数は12か月分の指数値を単純平均したものである。各増減率は端数処理後の数値で計算し、小数点第2位以下を四捨五入した。

### 5. 季節調整

季節調整とは1年を周期とする季節的な変動要因（天候、社会習慣等）を排除することをいう。本県ではセンサス局法のX-12-ARIMAを用いて算出した季節指数により季節調整を行っている。

### 6. 資料出所

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| (1) 経済産業省生産動態統計調査 | (3) 他の官庁の資料     |
| (2) 庁内各課の資料       | (4) 組合または事業所へ照会 |

### 7. 本文中及び統計表中の符号は、次のとおりである。

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| (1) 「r」は訂正数値(revised) | (3) 「0.0」は、0.05未満 |
| (2) 「▲」はマイナス          |                   |

### 8. 年間補正

経済産業省では、毎年、生産動態統計調査の前年分のデータを訂正（年間補正）している。これを受けて、群馬県鉱工業指数でも、毎年一回前年分の前年指数及び季節調整済指数を再計し、前年の1月から当年の最新公表月までの指数値を訂正・公表している。この際には、ほぼ全面的に対象期間の指数値が訂正されるため、特に「r」は付していない。

# 平成30年の鉱工業動向

生産、出荷、在庫はすべて上昇で推移

## 【生産】

年指数で 105.0、前年比 1.4%上昇となった。

### ・上昇した主な業種(前年比)

電気機械工業	21.5%
化学工業	12.3%
業務用機械工業	9.7%

### ・低下した主な業種(前年比)

ゴム製品工業	▲ 14.4%
情報通信機械工業	▲ 11.9%
電子部品・デバイス工業	▲ 7.3%

## 【出荷】

年指数で 103.6、前年比 0.8%上昇となった。

### ・上昇した主な業種(前年比)

電気機械工業	24.3%
化学工業	12.7%
業務用機械工業	9.6%

### ・低下した主な業種(前年比)

ゴム製品工業	▲ 14.5%
情報通信機械工業	▲ 11.2%
電子部品・デバイス工業	▲ 6.1%

## 【在庫】

年指数で 90.7、前年比 5.6%上昇となった。

### ・上昇した主な業種(前年比)

その他製品工業	111.4%
電子部品・デバイス工業	73.6%
輸送機械工業	31.8%

### ・低下した主な業種(前年比)

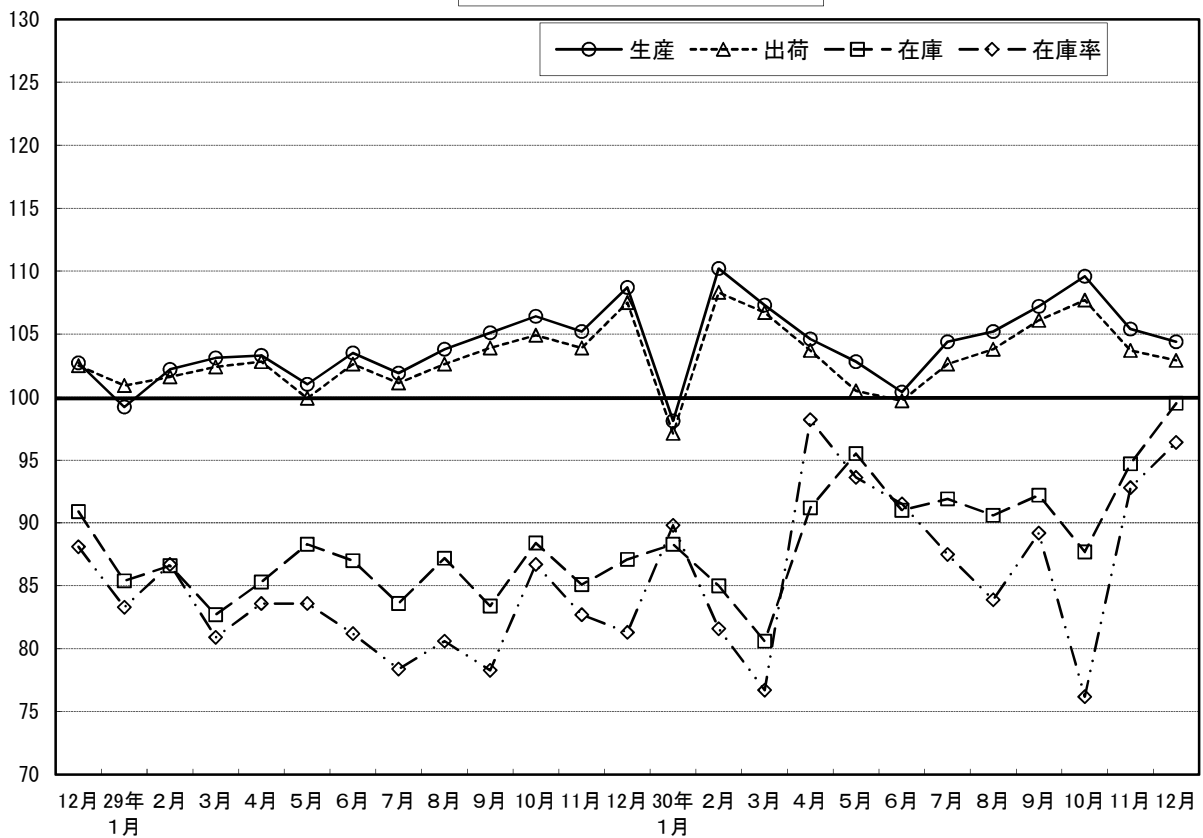
食料品工業	▲ 16.4%
非鉄金属工業	▲ 13.5%
パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 13.3%

## ◎寄与した主な業種

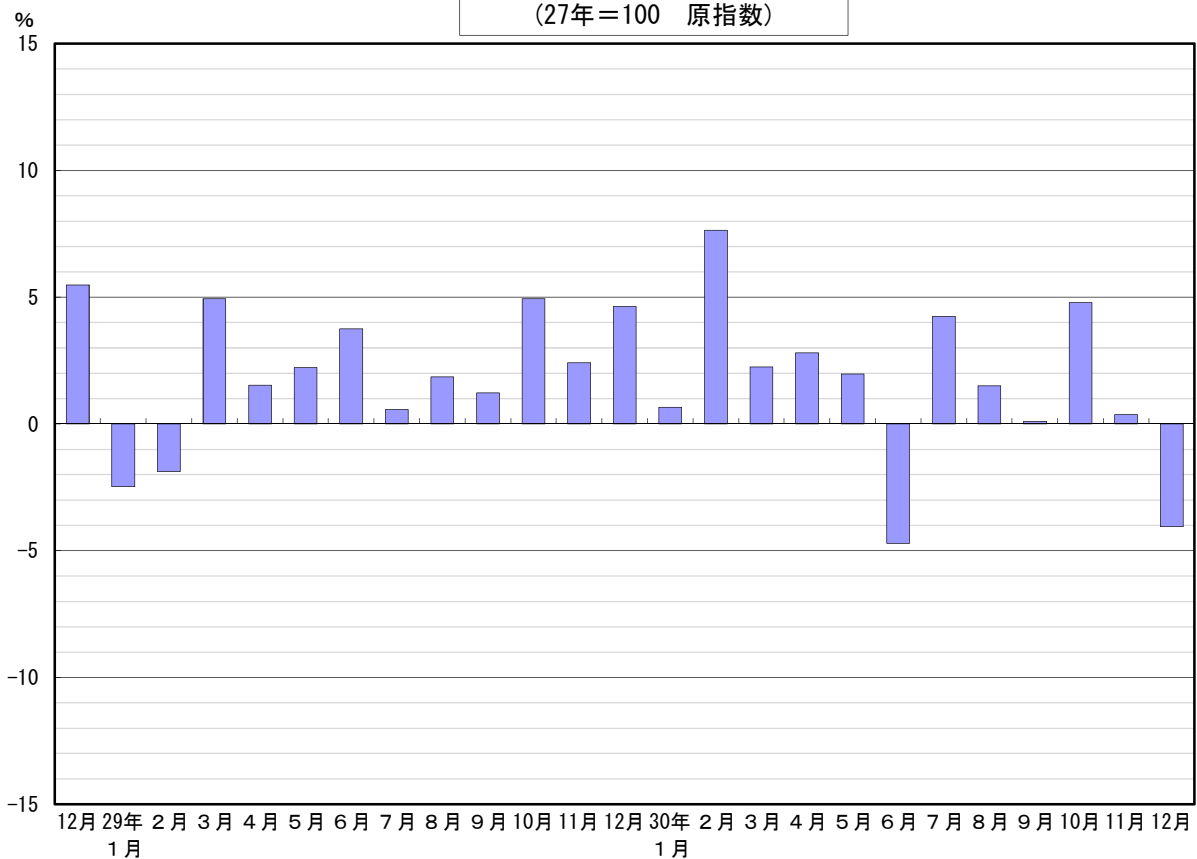
	業 種	前 月 比 寄 与 度	前月比(%)	主 な 品 目	
生 産	上 昇	化学工業	1.9	12.3	化粧品、けい素樹脂
		電気機械工業	1.0	21.5	半導体・I C測定器
	低 下	輸送機械工業	▲ 2.0	▲ 5.1	ステアリング装置、普通乗用車
		電子部品・デバイス工業	▲ 0.2	▲ 7.3	プリント配線実装基板、セラミックコンデンサ
出 荷	上 昇	電気機械工業	1.3	24.3	半導体・I C測定器
		化学工業	1.3	12.7	化粧品、けい素樹脂
	低 下	輸送機械工業	▲ 2.1	▲ 5.1	ステアリング装置、普通乗用車
		情報通信機械工業	▲ 0.1	▲ 11.2	端末装置
在 庫	上 昇	輸送機械工業	4.2	31.8	普通乗用車、トレーラ
		生産用機械工業	1.5	23.8	ショベル系掘削機械、整地機械
	低 下	食料品工業	▲ 1.4	▲ 16.4	みそ、日本酒
		非鉄金属工業	▲ 0.8	▲ 13.5	電気亜鉛

(注)各指数の上昇・低下に影響を与えた主な業種を載せている。一部秘匿あり。

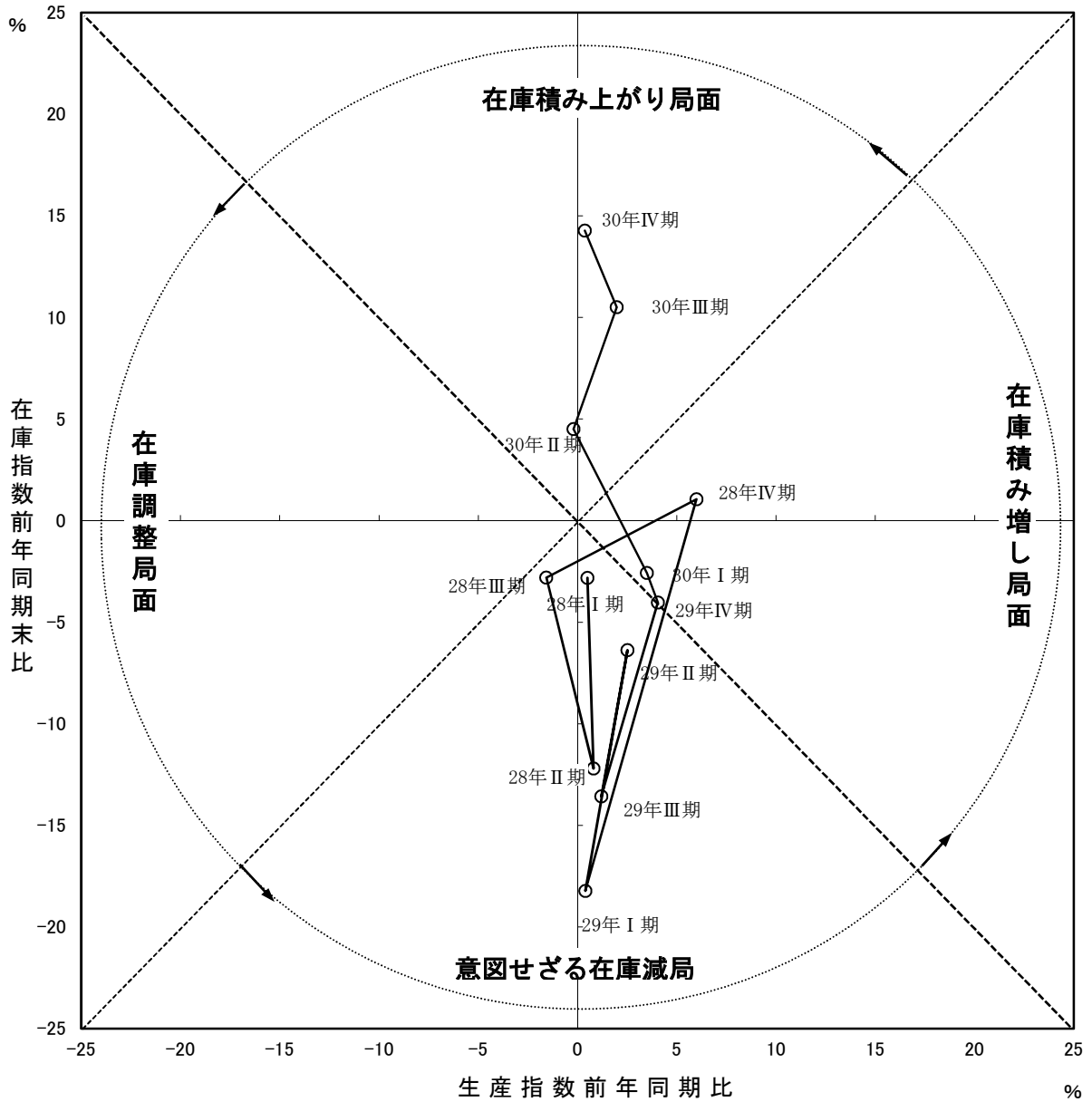
**鉍工業指数の推移**  
(27年=100 季節調整済指数)



**生産指数前年同月比の推移**  
(27年=100 原指数)



# ○ 在庫循環図



意図せざる在庫減局面 (景気拡大初期)	需要が回復し、出荷が増加し始めるが、生産は停滞しており、在庫は減少する。
在庫積み増し局面 (景気拡大期)	生産、出荷ともに好調に推移し、減少していた在庫も積み増しされる。
在庫積み上がり局面 (景気後退初期)	生産に比べ、出荷が減少し始め、在庫が積み上がる。
在庫調整局面 (景気後退期)	生産を調整することによって、在庫が減少する。





















## 財別格付け上の定義

最終需要財	<p>鉱工業又は他の産業に原材料等として投入されない製品</p> <p>ただし、建設財を含み、企業消費財を除く</p>
投資財	<p>資本財と建設財の合計</p>
資本財	<p>家計以外で購入される製品で、原則として想定耐用年数が1年以上で比較的購入価格が高いもの</p>
建設財	<p>建設業者で購入される製品で、原則として想定耐用年数が1年以上で比較的購入価格が高いもの</p>
消費財	<p>家計で購入される製品（耐久消費財と非耐久消費財の合計）</p>
耐久消費財	<p>原則として耐用想定年数が1年以上で比較的購入価格が高いもの</p>
非耐久消費財	<p>原則として耐用想定年数が1年未満または比較的購入価格が低いもの</p>
生産財	<p>鉱工業及び他の産業に原材料として投入される製品</p> <p>ただし、企業消費財を含み、建設財を除く</p>
鉱工業用生産財	<p>鉱工業の生産工程に原材料、燃料、部品、容器、消耗品、工具等として再投入される製品</p>
その他用生産財	<p>非鉱工業用の原材料、燃料、消耗品及び企業消費財</p>

